

知的障害特別支援学級の教育内容・方法等に関する全国調査

1. 本調査の目的と意義

- 今日の知的障害特別支援学級における教育内容・方法等の現状と課題について明らかにします。
- 本調査の結果は、知的障害特別支援学級担当者の専門性向上に関する今後の施策立案に資する貴重なデータとなります。

2. 回答者と回答時間について

- 質問項目Ⅰ～Ⅴについては、貴校の**知的障害特別支援学級**を担当されている方がご回答ください。
質問項目Ⅵについては、貴校の**管理職**の方がご回答ください。
- なお、複数の知的障害特別支援学級が設置されている場合は、特別支援学級主任の方か、学校名簿で一番最初の学級名の学級を担当されている方1名が回答してください。
例：名簿に若葉学級、タンポポ学級の順に記載されている→ 若葉学級の担任の先生が回答。
- 回答時間は45分程度を見込んでおります。お忙しいところ恐れ入りますが、よろしくお願いいたします。

3. 本調査結果の公表と個人情報の保護

本調査結果は、「知的障害特別支援学級の教育内容・方法等に関する全国調査」の報告書において公表します。その際、回答者の個人情報や機関が特定されない形で公表するようにします。なお、この研究に携わる者が個人に関する情報を第三者に漏らすことはありません。また、この研究で得られた情報（アンケートの回答を含む）は個人を特定できないよう数値・記号等にし、厳重に管理します。

4. 返送方法及び締め切り

本調査用紙を返信用封筒に同封して郵送いただくか、または
<http://www.nise.go.jp/cms/keywords/1-.kwstring.7.html>（ホーム ＞ 障害種別 ＞ 知的障害教育）
 からダウンロードした調査用紙に記入・入力いただき v-tokugaku-sh@nise.go.jp 宛てのメールに添付して、平成30年3月20日（火）までにお送りください。

5. 問い合わせ先

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
 〒239-8585 神奈川県横須賀市野比 5-1-1
 問い合わせ専用 e-mail : v-tokugaku-sh@nise.go.jp
 担当：横尾 俊（インクルーシブ教育システム推進センター／研究代表者）
 TEL:046-839-6840（直）
 平沼源志（発達障害教育推進センター）TEL:046-839-6887（直）

《調査票の質問項目》

- 本調査票では、次のような事柄について伺います。

- | | | |
|---|----------------------------|---|
| Ⅰ. 担任する知的障害特別支援学級の状況等について
Ⅱ. 教育課程や指導及び評価について
Ⅲ. 個別の教育支援計画、個別の指導計画等について
Ⅳ. 通常の学級との交流及び共同学習について
Ⅴ. 相談、校内組織、研修等について
Ⅵ. 貴校について | }

} | →Ⅰ～Ⅴは知的障害特別支援学級担任の方が回答

→Ⅵは管理職の方が回答 |
|---|----------------------------|---|

調査に関する同意

本調査の協力に関して同意されますか。下記のどちらかに○をつけてください。

(同意する 同意しない)

氏名：_____

所属：_____

同意するに○を記入された方は次ページからの質問にご回答下さい。

●学校名及び回答者氏名等について下記にご記入ください

学校名	(都・道・府・県)		
	(区・市・町・村) 立		小学校
学校住所	〒		
学校電話	(市外局番) — —		
回答者氏名		職 名	
雇用形態	☐ 正規雇用 ☐ 臨時雇用	回答者連絡先 e-mail	@

I. 担任する知的障害特別支援学級の状況等について

1. あなた（回答者）について

- 1.1. 教員経験年数 （ ）年 （平成 29 年 4 月 1 日現在）
- 1.2. 特別支援教育の経験年数 （ ）年 （平成 29 年 4 月 1 日現在）
（例：特別支援学校、特別支援学級担任、通級による指導）
- 1.3. 特別支援学校教諭免許状の有無について、下記の中から該当するものに○を付け、また、その内訳についてレ点を付けてください。
（ ）ア：特別支援学校教諭免許状（知的障害）又は養護学校教諭免許状
（内訳：□専修 □一種 □二種）
（ ）イ：特別支援学校教諭免許状（知的障害以外）（内訳：□専修 □一種 □二種 ）
（ ）ウ：盲学校教諭免許状または聾学校教諭免許状（内訳：□専修 □一種 □二種 ）
（ ）エ：自立活動教諭一種免許状
（ ）オ：現在、認定講習や大学・大学院等で免許取得中（内訳：□専修 □一種 □二種 ）
（ ）カ：なし
- 1.4. あなたは現在、通常の学級の担任への支援をしていますか。

（ ）ア：はい （ ）イ：いいえ



- 「はい」の場合、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。
- （ ）ア：通常の学級担任とチーム・ティーチングで指導している
（ ）イ：通常の学級担任の相談に応じ、体的な支援方法について助言している
（ ）ウ：配慮の必要な児童に対して発達の検査等を行っている
（ ）エ：教材・教具の貸し出しを行っている
（ ）オ：個別の指導計画の作成を支援している
（ ）カ：個別の教育支援計画の作成を支援している
（ ）キ：その他（ ）

2. あなたが担任している学級の児童や学級集団について

- 2.1. あなたの学級に在籍している児童は何名ですか。 （ ）名
- 2.2. あなたの学級に在籍している児童の人数を、必要な支援の度合い別に記入してください。
- レベル 1…日常生活や学習活動に、いつも 1 対 1 の支援を必要とする程度 （ ）名
レベル 2…日常生活や学習活動に、必要な時に 1 対 1 の支援を必要とする程度 （ ）名
レベル 3…日常生活や学習活動に、必要な時に学級全体への指示の中で声掛けを必要とする程度 （ ）名
レベル 4…日常生活や学習活動に、ほとんど支援を必要としない程度 （ ）名

- 2.3. あなたの学級に在籍している児童の障害の種別毎の人数を、知的障害のみの場合や重複障害のある場合等にわけて、下記の表に記入してください。

障害の種別		人数
知的障害のみ *		名
知的障害に重複する障害	自閉症スペクトラム障害 **	名
	肢体不自由	名
	その他の障害 (聴覚障害、視覚障害、病弱虚弱など)	名
合 計		名

* 知的障害のあるダウン症を含みます。

** 自閉症スペクトラム障害には、DSM-IVで定義されていた、自閉性障害、アスペルガー症候群、広汎性発達障害などを含みます。

- 2.4. 貴校には知的障害特別支援学級の他に、他の障害種の特別支援学級は設置されていますか。
 () はい () いいえ

↓

●「はい」の場合は、以下の問いにもお答えください。

- 2.5. 校内の他の障害種の特別支援学級と、合同で授業を行うことはありますか。下記の中から該当するもの1つに○を付けてください。

- () 1. 行事（遠足、運動会など）や日常の授業において合同で授業を行っている
 () 2. 行事（遠足、運動会など）のみに合同で授業を行っている
 () 3. 行っていない

- 2.6. 上記2.5. で1または2とお答えした方にお聞きします。合同で授業を行う理由について、下記の中からもっとも該当するもの1つに○を付けて下さい。

- () ア：専門性の高い教員のノウハウを他の教員に伝えることができるから
 () イ：指導に当たる教職員の人手を確保するため
 () ウ：集団のサイズを大きくした方が教育効果が高いから
 () エ：多様な実態の児童の集団の方が教育効果が高いから
 () オ：合同行事の事前事後学習を行うため
 () カ：その他（具体的内容)

Ⅱ．教育課程や指導及び評価について

1. 教育課程について

1. 1. 教育委員会に届け出ている教育課程について、下記の選択肢から特に該当するもの 1つに○ を付けてください。また、自立活動で主に指導している内容について、下記の選択肢から特に該当するもの 1つに○ を付けてください。

*記入に当たっては、貴校の知的障害特別支援学級に在籍する低学年（1、2年生）、中学年（3、4年生）、高学年（5、6年生）の中から、名簿で最初の児童を各1名選び、お答えください。

		学年	教育課程	自立活動の内容
例	低学年	2	イ	カ
Aさん	低学年			
Bさん	中学年			
Cさん	高学年			

教育課程について

ア：通常の学級における当該学年の各教科等を中心に編成している。
 イ：通常の学級における下学年の各教科等を中心に編成している。
 ウ：知的障害特別支援学校の各教科等を中心に編成している。
 エ：自立活動を中心に編成している。

自立活動について

ア：「健康の保持」に関すること（例：生活リズムや生活習慣、身の回りの清潔 等）
 イ：「心理的な安定」に関すること（例：スケジュール等の見通しを持つ、嫌な気分になったときに落ち着ける方法を見つける 等）
 ウ：「人間関係の形成」に関すること（例：挨拶をする、自分の意思を言葉や態度で伝えるルールを守る 等）
 エ：「環境の把握」に関すること（例：予定変更などに対処する、掲示物を理解する 等）
 オ：「身体の動き」に関すること（例：着替えや、衣服をたたむ等の可能な日常動作を増やす、椅子に良い姿勢で座る 等）
 カ：「コミュニケーション」に関すること（例：相手の話をよく聞く、場と相手に配慮した会話をする、分からないときや困ったときをお願いをする 等）
 キ：その他（ ）

2. 指導等について

- 2.1. 特別支援学校（知的障害）の各教科等を中心に編成している場合、指導の形態として、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習といった「各教科等を合わせた指導」が行えます。

このうち「生活単元学習」を行っていますか？

() ア：はい () イ：いいえ



- 「いいえ」の場合は、下記の中から該当する理由全てに○を付けて下さい。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：「各教科等を合わせた指導」の教育課程への位置づけが分からないから
 () イ：「各教科等を合わせた指導」の指導内容の設定が難しいから
 () ウ：指導効果について疑問があるから
 () エ：集団で活動する時間をまとまって確保できないから
 () オ：評価の方法がわかりにくいから
 () カ：指導の個別化が十分できそうではないから
 () キ：教科別の指導を重視したいから
 () ク：保護者の理解を得ることが難しいから
 () ケ：その他 ()

また、「作業学習」を行っていますか？

() ア：はい () イ：いいえ



- 「いいえ」の場合は、下記の中から該当する理由全てに○を付けて下さい。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：「各教科等を合わせた指導」の教育課程への位置づけが分からないから
 () イ：「各教科等を合わせた指導」の指導内容の設定が難しいから
 () ウ：指導効果について疑問があるから
 () エ：集団で活動する時間をまとまって確保できないから
 () オ：評価の方法がわかりにくいから
 () カ：指導の個別化が十分できそうではないから
 () キ：教科別の指導を重視したいから
 () ク：保護者の理解を得ることが難しいから
 () ケ：その他 ()

- 2.2. 国語、算数の授業で、下記の中から用いているもの全てに○を付けてください。

- () ア：通常の学級で使用している検定教科書
 () イ：知的障害者用の文部科学省著作教科書（※いわゆる☆本）
 () ウ：イを除く、学校教育法附則9条に規定する教科用図書（※特別支援学級で利用できる検定教科書以外の図書のこと。以前、通称107条本と呼ばれていた。）
 () エ：市販のパソコンソフトウェア等のデジタル教材
 () オ：上記エ以外の市販の教材・教具
 () カ：自作のパソコンソフトウェア等のデジタル教材
 () キ：上記カ以外の自作の教材・教具
 () ク：その他 ()

2.3. 学習評価に当たり、観点別学習評価を行っていますか。

() ア：はい () イ：いいえ

↓

●「はい」の場合は、下記の問いにもお答えください。

2.4. 観点別学習評価はどのように行っているか、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

() ア：指導要録で行っている

() イ：通知表で行っている

() ウ：個別の指導計画の評価欄で行っている。

() エ：単元計画の評価で行っている

() オ：授業毎に行っている

() カ：その他 ()

2.5. 授業における学習評価にあたり、どのようなことが難しいと感じているか、下記の中から特に難しいもの1つに○を付けてください。

() ア：知的障害のある児童に適した評価規準の設定が難しい

() イ：どのような評価方法がよいか決めるのが難しい

() ウ：学習評価の結果の妥当性の判断が難しい

() エ：学習評価の結果を次の指導の改善につなげるのが難しい

() オ：その他 ()

Ⅲ. 個別の教育支援計画、個別の指導計画等について

1. 児童の実態把握について

- 1.1. あなたの学級では児童の実態把握の方法としてどのようなことを行っているかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- ☐ ア：行動観察をする
☐ イ：これまでの学習の記録を確認する
☐ ウ：自校で作成したチェックリスト等を用いている。
☐ エ：市区町村教育委員会等で作成したチェックリスト等を用いている
☐ オ：発達検査や知能検査等の結果を活用する（外部機関で実施した検査の結果を含む）
☐ カ：他の教員から学習の様子について情報収集する
☐ キ：医療などの関係機関に関わる情報について収集する
☐ ク：保護者から家庭での様子について情報収集する
☐ ケ：その他（ ）

- 1.2. あなたは知的障害のある児童を指導する上で、発達検査や知能検査の結果を指導や支援に活用したことはありますか。

- ☐ ア：ある ☐ イ：ない

↓

- 「ある」の場合、活用したことの検査全てに○を付けてください。

- ☐ ア：田中ビネー式知能検査
☐ イ：ウェクスラー式知能検査（WISC-ⅢまたはWISC-Ⅳ、WIPPSI など）
☐ ウ：K-ABC または K-ABC Ⅱ ☐ ケ：DN-CAS
☐ エ：新版K式発達検査 ☐ コ：乳幼児精神発達検査（津守式）
☐ オ：遠城寺式乳幼児分析的発達検査 ☐ サ：KIDS（キッズ）乳幼児発達スケール
☐ カ：S-M 社会生活能力検査 ☐ シ：太田ステージ
☐ キ：PEP-R または PEP-Ⅲ ☐ ス：その他（具体名： ）
☐ ク：CARS

- 1.3. あなたは知的障害のある児童の実態把握に関し、課題や困難を感じていますか。

- ☐ ア：はい ☐ イ：いいえ

↓

- 「はい」の場合は、下記の中から該当するもの全てに○を付けて下さい。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- ☐ ア：発達検査や知能検査の所見を指導に生かすこと。
☐ イ：知的障害の程度が重度の児童の実態把握
☐ ウ：知的障害の程度が比較的軽度の児童の実態把握
☐ エ：いわゆる「問題行動」や気になる行動の原因や、その対応策を探るための実態把握
☐ オ：その他（ ）

2. 個別の教育支援計画について

2.1. あなたの学級では、個別の教育支援計画を作成していますか。

() ア：はい () イ：いいえ

↓

● 「はい」の場合、下記の問いにもお答えください。

2.2. 個別の教育支援計画の様式について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- () ア：校内で作成した様式を使用している
 () イ：中学校区で作成した様式を使用している
 () ウ：区市町村教育委員会で作成した様式を使用している
 () エ：都道府県教育委員会で作成した様式を使用している
 () オ：その他 ()

2.3. 個別の教育支援計画の作成に関わる方について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- () ア：特別支援学級担任
 () イ：特別支援教育コーディネーター
 () ウ：管理職
 () エ：特別支援教育支援員
 () オ：合理的配慮協力員
 () カ：養護教諭
 () キ：保護者
 () ク：その他 ()

2.4. 個別の教育支援計画をどのように活用しているかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- () ア：個別の指導計画や年間指導計画の作成に活用している
 () イ：関係機関のネットワーク形成に活用している
 () ウ：進級や進学時、卒業時に一貫した支援を行うための引継ぎ資料として活用している
 () エ：校内委員会などの資料として活用している
 () オ：長期的な視点に立った教育内容の充実のために活用している
 () カ：その他 ()

2.5. 個別の教育支援計画の評価時期はどのようにしているかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- () ア：学期に一度評価している。
 () イ：年に一度評価している。
 () ウ：適宜、必要な時に評価している。
 () エ：特に行っていない。
 () オ：その他 ()

3. 個別の指導計画について

- 3.1. あなたの学級では、個別の指導計画を作成していますか。

() ア：はい () イ：いいえ



●「はい」の場合、以下の問いにもお答えください。

- 3.2. 個別の指導計画の作成に当たり、どのようなことが難しいと感じていますか。下記の中から特に難しいもの1つに○を付けてください。

- () ア：指導目標を設定する際に児童の実態把握やアセスメントをすること
 () イ：個別の指導目標を設定すること
 () ウ：具体的な指導内容を設定すること
 () エ：具体的な指導方法を設定すること
 () オ：具体的な評価方法を設定すること
 () カ：個別の指導計画を踏まえて授業を行うこと
 () キ：児童の生活に応じて、学習状況を評価すること
 () ク：評価結果を次の授業や指導に生かすこと
 () ケ：必要に応じて、計画の修正を行うこと

4. 引継ぎについて

- 4.1. あなたの学級では、進級時の児童の引継ぎの資料はどのようなものを用いるか、下記の中から該当するもの
- 全て
- に○を付けてください。

- () ア：個別の教育支援計画
 () イ：個別の指導計画
 () ウ：学校で作成した引継ぎ用の資料（支援引継ぎシート等）
 () エ：特に決まった資料はない
 () オ：その他 ()

- 4.2. あなたの学級では、中学校に進学する児童の引継ぎについて話し合う機会をどのように行っているか、下記の中から該当するもの
- 全て
- に○を付けてください。

- () ア：進学する中学校の特別支援学級担当者と個別の会議を設けている
 () イ：進学する中学校との会議（小中連携会議等）の場を設けている
 () ウ：進学する中学校に児童に関連する資料（個別の教育支援計画等）を送付している
 () エ：進学する中学校に電話で児童の様子を伝えている
 () オ：特に行っていない
 () カ：その他 ()

IV. 通常の学級との交流及び共同学習について

1. 交流及び共同学習の実施について

1.1. 通常の学級との交流及び共同学習を実施していますか。

() ア：はい () イ：いいえ



● 「いいえ」の場合、実施していない理由として、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

- () ア：児童の実態
 () イ：保護者の意向
 () ウ：実施準備や事前の調整が負担
 () エ：通常の学級の受け入れ体制が不十分
 () オ：その他 ()

● 「はい」の場合は、下記の問いにもお答えください。

1.2. 交流及び共同学習の実施の決定について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。 また、特に重視しているもの1つに◎を付けてください。

- () ア：児童の実態に即して決定している
 () イ：通常の学級の担任と相談して決定している
 () ウ：保護者の意向で決定している
 () エ：学校の方針として実施することになっている
 () オ：その他 ()

1.3. 交流及び共同学習として行っている各教科等の週当たりの授業時数を、以下の表に記入してください。 なお、ここでは以下の条件に該当する児童1人を選んで記入してください。

(条件)・知的障害特別支援学級に在籍している。

・通常の学級との交流及び共同学習の合計時間数が多い順に知的障害学級の児童を並べた時、真ん中（中央値）にいる児童。

(例：A児：交流5時間、B児：交流4時間、C児：交流3時間の場合はB児について回答する)

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	自立活動	計
週時間数															

- 「自立活動」で交流及び共同学習を実施している場合、その内容について記入してください。

2. 年間指導計画の作成及び評価の状況について

- 2.1. 交流及び共同学習の年間指導計画を作成していますか。

() ア:はい () イ:いいえ

↓

- 「はい」の場合下記の問いにもお答えください。

- 2.2. 計画の作成者について、特に特に当てはまるものに○を付けてください。

() ア：特別支援学級担任

() イ：交流学級担任

() ウ：特別支援学級担任と交流学級担任

() エ:その他 ()

- 2.3. 学習評価の時期について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

() ア：毎時間行っている

() イ：単元ごとに行っている

() ウ：学期ごとに行っている

() エ：年度末に行っている

() 才:その他 ()

- 2.4. 評価者について、特に当てはまるもの1つに○を付けてください。

() ア：特別支援学級担任

() イ：交流学級担任

() ウ：特別支援学級担任と交流学級担任

() エ：その他 ()

3. 交流及び共同学習における合理的配慮*の提供や内容について
(*2016年4月施行、「障害者差別解消法」に基づく合理的配慮)

- 3.1. 交流及び共同学習において、合理的配慮の提供を行っていますか。
() ア：はい () イ：いいえ

↓

●「はい」の場合は下記の問いにもお答えください。

- 3.2. 交流及び共同学習においてどのような合理的配慮の提供を行っているかについて、各教科等から一つを取り上げ、具体的な内容を記入してください。

各教科等の名称 ()

具体的な内容

- 3.3. 交流及び共同学習に関して交流学級担任と事前に打合せを行っているかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：毎回行っている
() イ：各教科等に応じて適宜行っている
() ウ：学習内容に応じて適宜行っている
() エ：対象児童の体調やその日の実態に応じて適宜行っている
() オ：全く行っていない
() カ：その他 ()

- 3.4. 特別支援学級において交流学級の事前学習を行っているかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：毎回行っている
() イ：各教科等に応じて適宜行っている
() ウ：学習内容に応じて適宜行っている
() エ：対象児童の体調やその日の実態に応じて適宜行っている
() オ：全く行っていない
() カ：その他 ()

4. 交流及び共同学習において付き添いを行う教員や特別支援教育支援員の数と週時間数

- 4.1. 特別支援学級担任が交流及び共同学習に付き添っていますか。

() ア：毎回付き添う () イ：必要に応じて適宜付き添う () ウ：付き添わない

- 4.2. 特別支援教育支援員が付き添いを行っている場合、付き添いを行う支援員の数を記入してください。

() 人

- 4.3. 特別支援教育支援員の付き添いについて、支援員全員の週時間数の合計時間数を記入してください。
週 () 時間

V. 相談、校内組織、研修等について

1. 指導に関する相談の有無や内容について

- 1.1. あなたが児童への日々の指導に関して相談する環境について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：校内の同僚や先輩に相談する
 () イ：校内の特別支援教育コーディネーターに相談する
 () ウ：管理職に相談する相談することが特にない
 () エ：校外の専門家（特別支援学校の教員や児童相談所等）に相談する
 () オ：書籍や研修等から得た知識・技術により対応する
 () カ：相談したいが、特に相談する環境がない
 () キ：その他 ()

- 1.2. 児童への日々の指導に関して相談する内容について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの1つに◎を付けてください。

- () ア：児童の実態把握に関すること
 () イ：授業内容に関すること
 () ウ：個々の児童に応じた具体的な指導方法に関すること
 () エ：通常の学級との交流及び共同学習の内容に関すること
 () オ：保護者との連携に関すること
 () カ：研修の機会や内容に関すること
 () キ：その他 ()

2. 研修について

- 2.1. 貴校で特別支援教育に関する校内研修を今年度実施していますか。

- () ア：はい () イ：いいえ

↓

●「はい」の場合、下記の問いにもお答えください。

- 2.2. 今年度の実施回数を記入してください。 () 回

- 2.3. 特別支援教育に関連する校内研修のテーマや講師の所属について、以下の表に記入してください。
 なお、講師の所属については、下記の選択肢からお選びください。

	研修テーマ	講師の所属
テーマ1		
テーマ2		
テーマ3		
テーマ4		
テーマ5		

ア：特別支援学校 イ：教育委員会や教育センター ウ：関係機関（児童相談所等）
 エ：大学 オ：校内の同僚（特別支援教育コーディネーター等） カ：その他

2. 4. あなたは校外での特別支援教育に関する研修に、平成 29 年度はどの程度参加しましたか。なお、参加なしの場合は 0 回と記入してください。
- 必修の研修または研究会：(年間 回)
- 自主参加した研修または研究会：(年間 回)

3. その他

3. 1. 特別支援学校学習指導要領を個人、または特別支援学級において所持していますか。

() ア：はい () イ：いいえ



●「はい」の場合

3. 2. どのような場面で活用しているかについて、下記の中から該当するもの全てに○をつけてください。また、特に当てはまるもの 1 つに◎をつけてください。

() ア：指導計画を作成する時に活用している

() イ：学習指導案を作成する時に活用している

() ウ：日々の指導を考える時に活用している

() エ：特に活用していない

() オ：その他 ()

3. 3. 国立特別支援教育総合研究所の Web や講義配信を視聴したことがありますか。

() ア：はい () イ：いいえ



●「はい」の場合

3. 4. どのような場面で視聴したかについて、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。

() ア：校内研修

() イ：特別支援学校主催の研修会

() ウ：教育委員会や教育センター主催の研修会

() エ：その他 ()

3. 5. 国立特別支援教育総合研究所の Web や講義配信の中で役に立った内容について、下記の中から該当するもの全てに○を付けてください。また、特に当てはまるもの 1 つに◎をつけてください。

() ア：インクルーシブ教育システム推進センター Web サイト

() イ：インクル DB

() ウ：発達障害教育推進センター Web サイト

() エ：免許法認定通信教育総合情報サイト

() オ：特別支援教育教材ポータルサイト

() カ：特別支援教育研修講義コンテンツ

() キ：研究成果報告書・資料

() ク：特になし

() ケ：その他 ()

3. 6. 質問項目 I ～ V の回答にかかった時間について、該当するものに○を付けてください。

() ア：30 分以内

() イ：30 分～45 分

() ウ：45 分～60 分

() エ：60 分以上

VI. 貴校について

1. 貴校の学級数や児童数等について

- 1.1. 貴校の学級数および在籍する児童数（平成 29 年 5 月 1 日現在）について、学籍に基づき下記の表にご記入下さい。通常の学級の人数には、特別支援学級在籍で交流している児童の人数は含めないでください。開設されていない障害種の特別支援学級については「0」（ゼロ）とご記入ください。

学年	学級数	児童数
通常の学級	学級	名
特別支援学級		
知的障害	学級	名
肢体不自由	学級	名
病弱・身体虚弱	学級	名
弱視	学級	名
難聴	学級	名
言語障害	学級	名
自閉症・情緒障害	学級	名
総計	学級	名

- 1.2. 平成 29 年 5 月 1 日現在、貴校で行われている「通級による指導（いわゆる通級指導教室）」に○をつけてください。

障害の種類	言語障害	自閉症	情緒障害	弱視	難聴	学習障害	注意欠陥多動性障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱
有無									

2. 知的障害特別支援学級について

- 2.1. 昨年度（平成 28 年度）の知的障害特別支援学級の卒業生の進路について記入してください。

国公立中学校の通常の学級	私立中学校の通常の学級	国公立中学校の特別支援学級	特別支援学校の中学部	その他 （具体的な進路先をお書きください）	H28 年度 卒業生数
名	名	名	名	名 ()	計 名

3. 知的障害特別支援学級担当者について

- 3.1. 知的障害特別支援学級を担当している全教員数についてご記入ください。
 知的障害特別支援学級担当教員の人数（ ）名
 [内訳：正規雇用の教員（ ）名、正規雇用以外（非常勤講師等）の教員（ ）名]

3. 2. 知的障害特別支援学級に特別支援教育支援員等が配置されていますか。

() ア：はい () イ：いいえ



● 「はい」の場合、以下の問いにもお答えください。

3. 3. 校内に配置されている特別支援教育支援員数と知的障害特別支援学級を担当する勤務時間数（通常の学級との交流及び共同学習の付添時間を含む）の合計を週単位でお答え下さい。

なお、校内に知的障害特別支援学級が複数設置されている場合は、すべての学級を担当する勤務時間数の合計を週単位でご記入ください。

特別支援教育支援員等の人数 () 名

知的障害特別支援学級での延べ勤務時間数 (週 時間)

4. 校内体制について

4. 1. 貴校において特別支援教育コーディネーターは何名指名されていますか。また、その方の職名について右の□の中にある選択肢から記入してください。

人数：() 名

職名：特別支援教育コーディネーターAさん ()

特別支援教育コーディネーターBさん ()

特別支援教育コーディネーターCさん ()

ア：特別支援学級担任（回答者自身）

イ：特別支援学級担任（回答者以外）

ウ：副校長・教頭

カ：教務主任

エ：学年主任

キ：養護教諭

オ：通級指導教室担当者

ク：その他

4. 2. 貴校では、通常の学級に在籍する特別支援の必要な児童が、知的障害特別支援学級に来て支援を受けることはありますか。ある場合はその人数をお答えください。

() 名

4. 3. 貴校では、通常の学級に在籍する特別支援の必要な児童に対し、知的障害特別支援学級の担任が通常の学級において、支援・指導を行うことはありますか（特別支援教育コーディネーターとしての業務も含む）。

() ア：はい () イ：いいえ

5. 校内組織に関する内容について

5. 1. 特別支援学級の児童のことを校内の同僚と話し合う機会について、下記の中から特に該当するもの 1 つに○をつけてください。

() ア：特別支援教育校内委員会

() イ：ケース会議

() ウ：職員会議

() エ：その他 ()

5. 2. 学校の経営方針または教育計画（もしくはスクールプラン）等の記述について、下記の中から該当するもの全てに○をつけてください。

() ア：「特別支援教育」の用語を含む記述がある

() イ：「インクルーシブ教育システム」の用語を含む記述がある

() ウ：「ユニバーサル・デザイン」の用語を含む記述がある

() エ：上記ア～ウの用語は使用していないが、障害のある児童の教育に関連する記述がある

() オ：その他 ()

6. 合理的配慮について

6.1. これまでに、在籍する児童の保護者から合理的配慮の申出がありましたか？

() ア：はい () イ：いいえ

6.2. 合理的配慮の提供に関する保護者との合意形成について、下記の中から該当するもの 1つに○ を付けてください。

() ア：保護者からの合理的配慮の申出があった場合には、基本的にその内容を提供することになっている

() イ：学校側から保護者の申出に対して、可能な合理的配慮の提供について提案し、合意形成を図っている。

() ウ：保護者と児童の担任が提供内容について協議することで、合意形成を図っている。

() エ：その他 ()

6.3. 保護者や本人から合理的配慮への申出がないが、必要な場合にどのようにしていますか。下記の中から該当するもの 全てに○ を付けてください。

() ア：児童の担任から、合理的配慮について保護者に提案し、合意形成を図っている。

() イ：校内委員会等で合理的配慮内容について協議し、その後に保護者に提案した上で、合意形成を図っている。

() ウ：通常の支援として位置づけ、合理的配慮の合意形成は行わない。

() エ：その他 ()

6.4. 合理的配慮の提供内容は主にどのようなものか、下記の中から該当するもの 全てに○ を付けてください。

() ア：学習内容の変更・調整

() イ：人的配置

() ウ：教材の工夫

() エ：その他 ()

6.5. 合理的配慮の提供をどのような場面で行っているか、下記の中から該当するもの 全てに○ を付けてください。

() ア：特別支援学級内で提供している

() イ：交流及び共同学習のとき交流学級の授業で提供している

() ウ：学校行事の時に提供している

() エ：その他 ()

6.6. 合理的配慮の提供内容を個別の教育支援計画に記述していますか。

() ア：はい () イ：いいえ

7. その他、知的障害特別支援学級担任が必要とする支援について、お考えをご自由にお書きください。

8. 質問項目Ⅵの回答にかかった時間について、該当するものに○を付けてください。

- () ア：15 分以内
- () イ：15 分～30 分
- () ウ：30 分～45 分
- () エ：45 分以上

これで調査票は終わりです。ご協力ありがとうございました。